

連載

鉄道写真家 櫻井 寛

列車で行こう!

Let's go by train!

Railway-Photographer Kan Sakurai



第7回「秋田新幹線こまち」で行こう!



のぞみ、はやぶさ、つばめ…など、数ある新幹線の愛称の中でも「こまち」は私のお気に入り。男性的な新幹線が多い中「こまち」は女性、しかも美人を連想させるからである。「こまち」は1997年3月22日、秋田新幹線開業の際の一般公募によって誕生した。今日「こまち」と聞いて何を連想するだろうか？秋田のブランド米「あきたこまち」もあれば「小町紅」という口紅もあるが、それらのルーツが平安時代の歌人・小野小町だ。生誕の地は諸説あるものの秋田県湯沢市小野地域説が有力で、毎年6月には「小町まつり」も開催される。秋田に向かう新幹線に相応しい列車名と言えよう。ともあれ、東京駅を8時37分に発車する「こまち7号」で出発進行！まずは東北新幹線「はやぶさ7号」と共に盛岡駅へ。ちなみに宇都宮～盛岡間の最高速度は日本最速の時速320km。従って東北新幹線内の「こまち」は「章駄天こまち」というわけだ。盛岡駅

で「はやぶさ7号」と別れ独身となった「こまち7号」は時速130kmの淑やかな足取りで田沢湖線を進む。東北新幹線内は高速のため車窓からの景色も飛ぶようだったが、盛岡から先は車窓風景がゆっくり楽しめる。とりわけ素晴らしいのは赤淵駅通過後に差しかかる岩手、秋田県境に跨がる湊谷美。県境のトンネル手前は、やがて北上川となり太平洋に注ぐ志戸前川であり、トンネルの先は、雄物川に合流し日本海に注ぐ生保内川なのだ。「こまち7号」は県境と分水嶺を越え11時28分、秋田県最初の田沢湖駅に停車した。田沢湖駅からは田沢湖や乳頭温泉郷へ。角館駅では武家屋敷に、秋田内陸縦貫鉄道で阿仁合方面へもお薦めだ。そして花火大会で有名な大曲駅では「こまち」の進行方向が変わる。全国に120ほどある新幹線の中で、大曲駅は唯一のスイッチバック駅なのである。大曲の宿は「大曲ユースホステル」で決まり！



鉄道写真家 櫻井寛

1954年長野県生まれ。鉄道員を目指し昭和鉄道高校に入学したが、在学中に鉄道写真の魅力にとりつかれ写真家に転向、日本大学芸術学部写真学科卒。出版社写真部に15年間勤務。90年にフォトジャーナリストとして独立し、今日に至る。93年、航空機を使わず陸路・海路のみで88日間世界一周。94年『鉄道世界夢紀行』で交通図書賞受賞。旅した国は95カ国、渡航回数は250回超。写真集『列車で行こう! The Railway World』(世界文化社刊)など著書多数。日本写真家協会、日本旅行作家協会会員。東京交通短期大学客員教授。

